



(仮ロゴ)



No.1-2013 2013年12月1日発行

Mission Statement

AFICS-JAPAN は、

- 国連システムの活動に協力します
- 会員のために必要な情報収集を行い、最新情報を提供します
- 会員相互の意見交換や情報交換のための交流会合を開催します
- 国際機関で働く人材育成を支援します

目次

1. 創刊のご挨拶：会長伊勢桃代
2. 会員交流：デイビッド・マローン国連大学新学長と懇談
3. 活動報告(1)：ニューヨーク情報収集、FAFICS 総会、UNJSPF 協議、代表部など
4. 活動報告(2)：国連人材アウトリーチ・ミッションとの情報交換
5. 大事なお知らせ：
 - 第三回年次総会の案内
 - 役員の改選
 - AFICS-Japan ロゴの募集
 - AFICS-Japan プロシユアの発行
 - 第9回執行委員会

ご挨拶：AFICS-Japan ニュースレターの創刊によせて

会長 伊勢桃代

月日の経つのは誠に早く、2013年も残すところ一か月となりました。

皆様におかれましては、いろいろな場所で日本の為にもまた国連の為に活躍のことと存じます。

今般、「AFICS-Japan ニュースレター」第一号を用意いたしましたので、ここにお送り申し上げます。ニュースレターの主な目的は、AFICS-Japan 自体の活動をお知らせすることと同時に、将来には当メンバーの福利厚生に関連する国連システムの動きや、メンバーの方々からの情報また現役職員による現場からの報告などを、掲載いたしたく考えております。ニュースレターを通じ、皆様の国連との繋がりの継続とメンバー間のいろいろな交流の促進にお役に立つことが出来れば幸甚に存じます。

このニュースレター創刊に際して、国連システム元国際公務員日本協会（AFICS-Japan）設立の経緯をご説明させていただきます。

《 Association of Former International Civil Servants (AFICS) の歴史は1940年に遡り、国際連盟時代に存在した元職員のグループと国連のジュネーヴの職員グループが結びつき、1955年にはAFICSと名乗り、国連事務局中心から他の国連機関・専門機関にもメンバーシップを広げる発展をしました。

1975年には、ジュネーブ、ニューヨーク、パリ、ローマの AFICS を設立メンバーとして、Federation of Associations of Former International Civil Servants (FAFICS)が設立されました。現在、52の AFICS メンバーが参加しています。結果、約20000人の国連引退者が加わっていると報告されています。

いろいろな場所で、またいろいろな国で、元国際公務員同士の繋がりが広がっていく環境の中で、日本にも当然 AFICS が存在すべきであるという意見があり、何回か設立の試みはあったようですが、2011年までその設立はありませんでした。そこで、AFICS 設立への強い要請が、当時の FAFICS 会長から明石康氏にあり、その可能性を探ることとなりました。当時元国際公務員の名簿が存在していなかったため、連絡先が知られている25名の方々に主旨・目的をご説明し、AFICS 設立の可否について意見を求めたところ、全員設立に賛成という結果が出ましたので、有志によるコアグループを立ち上げ、規約案の作成も含め、設立準備に入りました。

2011年3月27日に設立総会が開催され、規約案、執行委員会の立ち上げと執行委員が承認されました。これら総会の決定をもとに国連システム元国際公務員日本協会（AFICS-Japan）の活動が始まりました。また当協会は、2012年6月に開催された FAFICS 総会に於いてその正式のメンバーとして承認されました。2013年11月現在、メンバーは68人となっています。》

この創刊号は執行委員が協力し発信する運びとなりましたが、ニュースターだけでなく WEB サイトも開設していますので、当協会広報の将来について皆様からのご意見を戴くことが出来ましたら有難く存じます。

今後とも、メンバー全員の方々の協会へのご支援とご協力をお願いする次第でございます。

温度の変化の激しいこの頃でございますが、どうぞくれぐれもご健康にはご留意くださいますようお願い申し上げます。

会員交流：デイビッド・マローン国連大学新学長と懇談



会員からの質疑に応答する D. マローン学長

2013年10月2日、会員有志21人が参加して、今年3月に就任した国連大学（UNU）新学長デイビッド・マローン氏と国連システムにおける UNU の役割と運営について1時間半にわたって懇談しました。

伊勢会長の開会挨拶に続いて、マローン学長が現在の国際情勢の変化と UNU のあり方についてスピーチを行い、今後 UNU が国連本部のシンクタンク的役割を果たしていく方針であると述べました。その後、参加者からの質疑と応答があり、明石康特別顧問の挨拶で閉会しました。

- **Malone 学長のスピーチ概要**（出所：執行委員会記録）
冷戦終結とともに国連を取り巻く国際情勢は変化を遂げた。東西対立がなくなり、新興国が力をつけてきた。冷戦時代と比べ、経済の国際情勢における重要性が高まってきた。西ヨーロッパの国々の経済問題が、特に2007年から2008年の金融危機以後、深刻

化してきている。アジアにおいては、香港やシンガポールなどの都市（国家）の台頭、インドの成功が顕著となり、一方、日本、韓国、中国、三国間の政治的緊張が高まってきている。

このような国際情勢の変化に伴い、国連も変化の必要性が高まってきたが、同時にそれをけん制する力も働いてきた。例えば、2004－2005年にG4（日本、ドイツ、ブラジル、インド）が中心的役割を果たした安全保障理事会改革の動きにしても、結局は、成功しなかった。

拠出金や援助が減少傾向にある中で、国連機関は財政危機に直面している。国連機関にとって、より変化や改革が必要なものは、行財政の分野である。このような状況下では、成功している国連機関とあまりうまくいっていない機関との格差が目立ってきている。創立当時からメンバー国からだけでなく一般の人々から広く献金や援助を受け、経済界とも太いパイプを持ち、「子供」という明確な目的を持っていた UNICEF は成功例である。他方多くの国連機関は、財政難のために、本来の目的に沿った活動をできず、「アイデンティティーの危機」に陥

っている。いろいろな国連機関の統合の試みも行われているが、うまくいかない場合が多い。例えば、国連大学を含め、国連の研究、知識管理機関を一体化しようとした潘事務総長の試みは、主にメンバー国からの反対で進展がないままである。

このような状況下、国連大学の現状はどうか？ 国連大学は幸いなことに、主に日本からの寄付で設立された基金（Endowment Fund）をもっていて、そこから年に1500万－1600万ドルの収入がある。多くの国連機関が、組織を拡大してきたのに反し、国連大学は、規模の拡張を行わなかった。そのため、予算における人件費の割合を抑えることができた。組織的には、ヘルシンキに研究所を開設したのを皮切りに、主にヨーロッパ、そして最近が開発途上国に研究所やオフィスを開設してきた。ホスト国にも拠出金を出すことを義務付けることで、財政的基盤も確立してきた。

国連大学は国連本部の活動に貢献していないという批判があるが、今後は国連本部の活動に連携した研究活動を行うことにより、国連本部のシンクタンク的な役割を果たしていく方針である。また最近横浜の研究所を東京の研究所と統合し、この分野での効率化を行った。

略歴：Dr. David Malone

2013年3月より現職、ハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士、オックスフォード大学国際関係学博士、前カナダ国際開発研究センター所長、カナダ国連代表部大使、カナダ外務・国際貿易省（DFAIT）局長、独立研究政策開発機関・国際平和アカデミー（現国際平和研究所）所長などを歴任。またブルッキングス研究所の経済研究プログラムをはじめ多くの大学で研究、主に平和と安全保障に関する論文など

（UNU プレスリリースより）

活動報告（1）：ニューヨーク情報収集（出所：執行委員会記録）

伊勢桃代会長、佐藤純子書記

1. 第42回 FAFICS Council 総会

FAFICS Council の年次総会がニューヨーク国連本部で、7月8日-11日に行われた。伊勢桃代会長及び、佐藤純子書記が FAFICS-Japan を代表し、会議に参加した。委任状も含め世界中から FAFICS メンバー31協会の代表、47名が参加した。

会議での主な決定、提案及び、成果は次の通り。

- FAFICS 新メンバー

以下の5つの協会が full member として承認された：

AAFNUB (Benin)、AFICS-Cyprus、RUNSAN (Nepal)、AAFNU-N (Niger)、ATAFONU (Togo)。

- 国連年金

- ① FAFICS は、2014年1月1日以降国連に入る職員の定年を65歳、早期定年を58歳にするという提案を支持。
- ② FAFICS は、現行の Minimum pension (5年から10年勤務に適用) と Small pension (15年以上勤務に適用)の計算法の改正に関する、2つの提案を支持。
- ③ FAFICS は国連年金局が、Emergency Fund (年金受給者への緊急貸出のための基金) の存在を年金受給者に知らしめる努力をしたことを認めたが、一層の努力を促した。
- ④ FAFICS は今後、年金受給者の長生きの傾向に伴い、受給者の増加と年金サービスの質の維持に関し、年金局と話し合いを始めることを決定。

- 行財政関連

2014年 FAFICS 予算で、各国の AFICS から FAFICS への分担金を、一人につき\$1.35 から\$1.50 にすることを決定。

- 第43回 FAFICS Council 総会

年金基金の総会に合わせ、2014年7月初旬にローマにて開催予定。

2. 国連年金局との協力関係

FAFICS Council 開催中、伊勢会長は国連年金局の最高経営責任者 (CEO)、Sergio B. Arvizu 氏と会い、年金問題は日本在住の国連退職者のみならず近く退職を迎える職員にとり重要な課題であり、東京で説明会を開催することの可能性を話し合った。時期としては、2014年2月ごろの可能性。現役の国連職員と説明会を共有する方向で、今後、話し合いを継続する予定。

3. 国連代表部との会合

7月17日、伊勢桃代会長と佐藤純子書記は国連代表部を訪問、山崎純大使、相木俊宏公使、矢島恵理子書記官と会い、国連日本人職員増強、新しい採用試験制度 Young Professionals Programme (YPP) などについて、意見の交換をした。

8月5日、伊勢会長は、再度矢島書記官と会い、YPPの問題点などについて、さらに意見交換を深めた。

4. 国連事務局人事部との会合

8月1日、伊勢会長は、国連事務局人事部の担当官と会った。日本人の採用に関する諸事情についての話し合いをした。国連は今年秋、日本に採用ミッションを送る可能性を考えている。

5. 国連職員との会合

7月5日、伊勢会長と佐藤書記は日本人職員会の伊東亜紀子会長、村田敏彦顧問と会い、国連職員の現状について意見交換をした。また7月18日は日本人職員のカジュアルな集まりに招待され、広く職員たちと話す機会を持った。

8月5日、伊勢会長は、UNDP 特別顧問の河野毅氏や若い日本人職員と会食し、UNDP の財務状況や職員の現状などについて話し合う機会を持った。

活動報告（2）：国連人材アウトリーチ・ミッションとの情報交換（出所：執行委員会記録）

2013年10月23日 AFICS-Japan は、外務省会議室において国連アウトリーチ・ミッションと1時間半にわたって懇談し、国連職員採用に関する情報交換を行いました。国連アウトリーチ・ミッションは、日本人職員の増強に協力するため来日しました。長期的な視野に立って国連機関、外務省、AFICS-Japan などがパートナーとなって国連が求める人材を育成強化し、日本人職員を増強できるような基盤作りのために関係諸機関と協議を行ったものです。

AFICS-Japan から は伊勢桃代会長、赤阪清隆、久山純弘、横山和子、佐藤純子の各氏が出席し、国連アウトリーチ・ミッションからの出席は以下の各氏です。

➤ 事務局 OHRM

Martha Helena Lopez, Director, Strategic Planning and Staffing Division

John Ericson, Chief, Outreach Unit, Strategic Planning and Staffing Division

➤ 事務局 OCHA

Yasuko Sawada, Human Resources Officer

➤ UNDP

Marie Pesonen, Human Resources Analyst

➤ UNFPA

Michael Emery, Director, Division for Human Resources

国連アウトリーチ・ミッションとの会合には、UNFPA 東京事務所の佐崎淳子所長、外務省国際機関人事センターの佐藤雅俊室長が同席されました。

懇談会の発言要旨

- OHRM : 国連で働く場合、Geographical distribution の範囲外にもいろいろ職種があることを指摘。
Field post (PKO、Political Mission, OCHA)、コンサルタント、インターンなど、特に国連インターンは将来国連で働く若者にとって非常に良い登竜門になるので、大学が国連インターンシップに単位を与えるようにすれば、学生は、もっ

と国連インターンに応募するようになる。また、2011年に始まった YPP (Young Professionals Programme) に関して、いまのところ日本人は一人も合格していない。1次試験の筆記試験で合格者が一人もいなかったこと、2次試験のインタビューの重要性も強調。

- OCHA : 雇用契約は Fixed-term だけでなく、Temporary appointment という形態もある。
- UNFPA : UNFPA は独自の採用 Website があるが、日本人の応募者が少ない。インタビューの重要性を強調。
- UNDP : UNDP には現在 88 人の日本人がいて、最近 P-5 の日本人を採用した。JPO プログラムは日本人が UNDP に入るために有効なプログラムである。

質疑応答

1. 応募者の資質を評価する基準は？ :

- ◇ Substantive skills
- ◇ Attributes (Value & Competencies)
- ◇ Managerial competencies (管理職の場合)

Substantive skills も大事であるが、むしろ応募者の Attributes (Competencies) がより重要である。応募者の Attributes/ competencies は、インタビューで判断されるため、応募者はインタビュースキルの訓練が必要。

2. 今回のミッションは、直接日本人の採用に結びつくのか？ :

過去のミッションと違い、今回は、応募者個人のインタビューはしない。むしろ長期的な視野で、国連機関、外務省、AFICS-Japan がパートナーとして、日本人職員増強目的で協力するための基盤づくり、という意味合いを持っている。

3. 近年国際的活動に興味のある学生、若者は増加している。たとえば“One Young World”などに参加している若者たちである。このような活動と、国連を結びつけることができないか？ :

国連としてもこのような日本の若者たちが、国連の場で活躍できることを望む。

- 国連で活躍するためには、“Interactive communication skills”が必要である。
- 英語以外の語学力があると有利になる。例えば、アラビア語ができる日本人は、アラビア語圏の国連オフィスでは、望まれる人材となる。
- JPO 経験者や海外留学中の日本人学生は、有望な国連職員候補生となるだろう。
- UNV など国連ボランティアの可能性も考えるとよい。

4. JPO は、事務局以外の国連機関では日本人の採用の有効な手段となっているが、事務局の場合は 32 歳以下の若者が国連職員になるためには採用試験を受ける必要がある。以前の採用試験制度 (NCRE) では日本人が合格していたが、YPP では合格者が出ないのはなぜか？ 英語が母国語ではないからか？ :

語学の問題ではないと思う。ほかにも英語が母国語でない国がたくさんあり合格者を出している。YPP 参加国が増え、応募者数が増えたので、競争が激しくなっている。

AFICS-Japan ロゴ募集 (参考例)



AFICS-Japan 役員

特別顧問：明石康

会長：伊勢桃代

副会長：内田孟男

会計：山本和

書記：佐藤純子

副書記：宮地節子

ウェブマスター：勝間靖

会報：登丸求己

監査役：久山純弘

発行：国連システム元国際公務員

日本協会 (AFICS-Japan) 執行
委員会

〒150-8925

東京都渋谷区神宮前 5-53-70

国連大学気付、AFICS-Japan

Email: afics.japan@gmail.com

Web: www.afics-japan.org

➤ Application form をきちんと（スペルや、不注意な間違いがないように）書くことが必要。

➤ Debate skills や Interview skills を磨くことが大切。

➤ 試験準備を十分にすることが大切。

一方、事務局もこのごろは JPO を雇うようになってきている。

日本人職員の増加問題の難しさ解消の一つの対応として、外務省からは当会に対し、高校生対象の活動を考えて欲しいとの言及がありました。

大事なお知らせ

◇ 第3回年次総会の案内：

下記の日程で年次総会を開催します。どうぞ今からご予約ください。

日時：2014年3月28日（金） 17:30～

場所：国際文化会館 樺山ルーム

◇ 来年度役員の変更：

現行の執行委員・監査役は、規定により2014年3月31日をもって任期満了となります。改選のために選挙管理委員会を立ち上げました。自薦他薦を問わず候補者を募り、総会で投票を行います。選挙の詳細については2013年12月25日にお知らせします。

◇ AFICS-Japan ロゴの募集：

AFICS-Japan の設立にともない、組織を象徴するようなロゴを採用します。会員からロゴ作品やロゴ・デザインのアイデアを募集します。次回総会までにロゴの採用を決めたいと思っていますので、ふるってご投稿ください。作品は2014年2月末までに afics.japan@gmail.com 宛データでお送りください。

◇ AFICS-Japan ブローシュアの発行：

AFICS-Japan のブローシュア（英・和文）が間もなく完成します。会員には Email で配信するほか、総会や交流会などの機会にお渡しできるようにします。また広報用に関係機関や団体にも配布しますので、個人的に必要な方はお申し出ください。

◇ 第9回執行委員会

2014年1月28日（火）10:00-12:00、国連大学ライブラリー会議室